

【第41回(2020年度)助成研究テーマ一覧】

分野	番号	区分 ^{注1)}	研究者 (敬称略)	所属(大学・研究機関)	研究テーマ	助成 金額 (千円)	研究 ^{注2)} 期間
大気	1	一般	木口 倫	秋田県立大学 生物資源科学部生物環境科学科	ドローンを用いた大気中水銀の動的観測法の確立と評価	1,400	初 2-1
	2	一般	安藤 昌儀	(国研)産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門	多要素ナノ複合蛍光体によるPM2.5原因ガスセンシングの研究	1,500	初 2-1
	3	一般	山浦 弘之	愛媛大学 理工学研究科	水銀蒸気モニタリングを可能とする新規水銀蒸気検知センサの開発	1,400	初 2-1
	4	一般	猪俣 敏	(国研)国立環境研究所 環境計測研究センター	炭素数の少ないアルケンからの新粒子生成に関する研究	900	継続 3-3
	5	一般	吉田 恵一郎	大阪工業大学 工学部電気電子システム工学科	元素状炭素微粒子の静電容量型付着を利用した除去技術開発	1,500	継続 3-2
	6	一般	張 代洲	熊本県立大学 環境共生学部	越境拡散微小粒子状物質中のバイオエアロゾルに関する研究	1,500	継続 2-2
	7	若手	植田 郁生	山梨大学大学院 総合研究部工学域物質科学系	PM2.5採取時におけるガス状有機化合物の影響評価	800	継続 2-2
	8	若手	池盛 文教	金沢大学 理工学域地球社会基盤学系	人為起源二次有機粒子の実態解明を目指した観測・解析手法の開発	900	継続 2-2
	9	一般	定永 靖宗	大阪府立大学大学院 工学研究科応用化学分野	越境輸送由来無機・有機硝酸態窒素のガス状・粒子状別動態解明	1,500	3-1
	10	一般	戸田 敬	熊本大学大学院 先端科学研究部基礎科学部門	燃焼二次生成ヘテロ有機化合物の粒子形成への寄与に関する研究	1,500	初 3-1
	11	一般	伊藤 一秀	九州大学大学院 総合理工学研究院	微粒子の経気道・経皮暴露リスクを定量評価するin Silico Human開発	1,500	初 2-1
	12	一般	長田 和雄	名古屋大学大学院 環境学研究科地球環境科学専攻	硝酸アンモニウム含有粒子による新型越境汚染メカニズムの解明	1,500	2-1
	13	一般	弓本 桂也	九州大学 応用力学研究所	機械学習を用いた大気汚染予測システムの予測精度向上	1,200	2-1
	14	一般	鳥羽 陽	金沢大学 医薬保健研究域薬学系	活性酸素産生・付加体生成能同時計測による大気粒子の毒性評価	1,400	2-1
	15	若手	玄 大雄	金沢大学 理工研究学域フロンティア工学系	単一粒子分光分析による大気中の不均一光化学反応過程の動態解明	1,000	初 2-1
土壌・水質	16	一般	今中 信人	大阪大学大学院 工学研究科応用化学専攻	鉄鋼排水中の有害有機物質を高効率で浄化可能な新規環境触媒	1,500	継続 3-2
	17	若手	木村 善一郎	呉工業高等専門学校 環境都市工学分野	マルチオミクスアプローチによる電極酸化細菌電子獲得機構の解明	1,000	継続 2-2
	18	一般	中山 忠親	長岡技術科学大学 技術科学イノベーション専攻	電気凝集汚水処理の超低消費電力化と微生物分解前処理の同時解決	1,500	初 3-1
	19	一般	西村 文武	京都大学大学院 工学研究科都市環境工学専攻	機械学習を活用した廃水処理の効率化と省エネルギー化技術開発	1,500	3-1
	20	一般	中島 常憲	鹿児島大学学術研究院 理工学域工学系工学専攻化学生命プログラム	鉄鋼排水中の金属錯体の存在と生態毒性への寄与評価	1,500	初 3-1
	21	一般	中里 哲也	(国研)産業技術総合研究所 環境創生研究部門	無試薬真空紫外光反応法を用いた水中毒性物質の低負担型監視技術	900	継続 3-3

【第41回(2020年度)助成研究テーマ一覧】

分野	番号	区分 ^{注1)}	研究者 (敬称略)	所属(大学・研究機関)	研究テーマ	助成 金額 (千円)	研究 ^{注2)} 期間
土 壌 ・ 水 質	22	一般	小瀬 知洋	新潟薬科大学 応用生命科学部応用生命科学科	カルシウム担持燐炭を用いたリン循環型 水田システムの確立	1,000	継続 3-3
	23	一般	岡田 敬志	福井大学 工学部物質生命化学科	BixTiyOz膜を有するセレン酸イオン電解用 カソードの合成	1,500	継続 3-2
	24	一般	村岡 貴博	東京農工大学 工学部応用化学科	新規微生物ラベル化法による環境浄化に 有効な微生物の単離技術	1,500	3-1
	25	一般	飯野 隆夫	(国研)理化学研究所 バイオリソース研究センター	新規腐食性硝酸塩還元菌の新規モニタ リング技術の開発	1,500	3-1
	26	一般	中島 典之	東京大学 環境安全研究センター	底質環境DNA手法確立のための各種 起源由来DNAの分解動態の定式化	1,000	継続 3-3
	27	一般	井上 徹教	(国研)海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所海洋情報・津波研究領域 海洋環境情報研究グループ	鉄系底質改善剤が底生多毛類に及ぼす 影響	1,400	継続 2-2
	28	一般	奥山 幸俊	三重県保健環境研究所 環境研究室資源循環研究課	河川栄養塩類供給変化による河川、沿岸 部への影響の推定法研究	1,200	初 2-1
副 産 物	29	一般	鈴木 道生	東京大学大学院 農学生命科学研究科	微生物を用いた鉄鋼スラグの藻場造成 資材として高度利用法の開発	1,000	継続 3-3
	30	一般	胡桃澤 清文	北海道大学大学院 工学研究院環境循環システム部門	高炉スラグ固化体作製のための高炉 スラグの反応促進技術の開発	1,500	継続 3-2
	31	一般	一家 崇志	静岡大学学術院 農学領域応用生命科学科	茶園への鉄鋼スラグ散布による土壌改良 と茶品質向上効果の検証	1,500	継続 3-2
	32	一般	坪内 直人	北海道大学大学院 工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合 領域研究センター	製鋼スラグからの高効率リン回収法の 開発	1,400	継続 3-2
	33	一般	伊藤 洋介	名古屋工業大学 工学部社会工学科	電気炉酸化スラグ骨材を用いた コンクリートの熱劣化	1,500	継続 2-2
	34	一般	澤口 直哉	室蘭工業大学大学院 工学研究科しくみ解明系領域	高炉水砕スラグと廃ガラス粉末を原料と する建材タイルの開発	1,400	継続 2-2
	35	一般	中井 智司	広島大学大学院 先進理工系科学研究科化学工学プログラム	製鋼スラグ散布による底質カーボン ストックの増強に関する研究	1,500	継続 2-2
	36	一般	綾野 克紀	岡山大学大学院 環境生命科学研究所環境科学専攻	高炉スラグ細骨材がコンクリートの品質を 改善するメカニズム解明	1,500	3-1
	37	一般	杉山 茂	徳島大学大学院 社会産業理工学研究部理工学域応用化学系	脱リンスラグからのリンの選択的回収技術 の開発	1,500	2-1
	38	一般	鈴木 賢紀	大阪大学大学院 工学研究科マテリアル生産科学専攻	水熱環境での還元反応による製鋼スラグ からの鉄とリンの分離回収	1,500	初 2-1
	39	一般	山末 英嗣	立命館大学 理工学部機械工学科	高エクセルギー廃棄物を用いた鉄鋼 スラグからの黄リン製造	1,500	2-1
	40	若手	山口 千仁	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター生産環境研究領域	植物への含硫化合物蓄積誘導剤としての 転炉スラグの有用性の検討	1,000	初 2-1
	41	若手	片山 裕美	八戸工業大学 工学部生命環境科学科	鉄鋼スラグを利用した新規還元反応の メカニズムの解明	1,000	2-1

【第41回(2020年度)助成研究テーマ一覧】

分野	番号	区分 ^{注1)}	研究者 (敬称略)	所属(大学・研究機関)	研究テーマ	助成 金額 (千円)	研究 ^{注2)} 期間
地球環境	42	一般	武居 昌宏	千葉大学大学院 工学研究院	水素還元高炉内のリアルタイム3Dモニタリングと粉体分布制御	1,000	継続 3-3
	43	一般	村上 太一	東北大学大学院 環境科学研究科先端環境創成学専攻	未利用炭素資源を活用した省エネルギー製鉄原料の開発	1,400	継続 2-2
	44	若手	夏井 俊悟	東北大学 多元物質科学研究所	N相界面の動力学と位相的データ解析に基づく高炉下部の定量評価	1,000	継続 2-2
	45	一般	安藤 祐司	(国研)産業技術総合研究所 ゼロエミッション国際共同研究センター	二酸化炭素の固定化・再資源化を目指した触媒システムの開発	1,500	初 3-1
	46	若手	秦 慎一	山陽小野田市立山口東京理科大学 工学部応用化学科	工場の熱配管から生じる排熱を利用した環境発電シート的设计	900	継続 2-2
	47	若手	市川 俊輔	三重大学大学院 教育学研究科理科教育講座	バイオリファイナリー基盤技術におけるバイオマス糖化機構の解明	1,000	初 2-1
	48	一般	野呂 真一郎	北海道大学大学院 地球環境科学研究院統合環境科学部門	柔らかい多孔性物質による高効率二酸化炭素分離材料の創製	1,000	継続 3-3
	49	一般	増田 秀樹	愛知工業大学 工学部応用化学科	炭酸ガスを捕捉し有用物質へ変換する革新的触媒技術の創製	1,000	継続 3-3
	50	一般	加藤 之貴	東京工業大学 科学技術創成研究院先導原子力研究所	大規模化可能な低コスト平板型水素分離膜によるCO ₂ 回収効率化	1,500	3-1
	51	一般	松崎 弘美	熊本県立大学 環境共生学部環境共生学科	二酸化炭素を原料とした高性能バイオプラスチックの生合成	1,500	初 2-1
	52	一般	埜上 洋	東北大学 多元物質科学研究所	連続生成液膜による物質移動の高速化と能動制御	1,500	2-1
	53	若手	廣田 雄一郎	名古屋工業大学大学院 工学専攻生命・応用化学系プログラム	透過機構の解明と制御によるCH ₃ OH/H ₂ /CO ₂ 分離膜の高性能化	900	初 2-1
	54	若手	脇坂 聖憲	東京工業大学 科学技術創成研究院	二酸化炭素を固定する高密度高分散モリブデンクラスター触媒開発	1,000	初 1-1
	55	若手	池山 秀作	大阪市立大学 人工光合成研究センター	CO ₂ を原料とした尿素樹脂合成のための生体触媒利用技術の開発	1,000	初 1-1
	56	若手	高根 雄也	(国研)産業技術総合研究所 環境創生研究部門	COVID-19外出自粛によるヒートアイランド緩和と省エネ	998	初 2-1
	57	若手	菊池 将一	静岡大学 工学部機械工学科	環境負荷低減のための液中高温高圧気泡加工による多機能鋼の創製	1,000	初 1-1
エコプロセス	58	一般	奥村 幸彦	香川大学 創造工学部機械システム工学領域	鉄資源リサイクルのためのバイオマスバインダーの開発	1,500	1-1
	59	若手	柏倉 俊介	立命館大学 理工学部機械工学科	塗装を考慮したLIBSと機械学習による自動車用鋼板の高速選別	1,000	1-1

注1) 若手研究資格:

2020年4月1日時点において、次のいずれかに該当する者が主体的に研究を行う研究代表者(申請者)であること

① 満年齢39歳(2年計画で申請する場合は38歳)以下の者

② 博士号取得後8年未満(2年計画で申請する場合は7年未満)の者

注2) 研究期間:a-b:研究期間a年中b年目、

継続:継続案件、初:初めての助成研究者